

ヨーロッパとは何かーアイデンティティ形成の過程ー

—Europe in History: the making of European Identity—

社会科教育・森 貴子

1. 講義の概要

2014年度後期・水曜日4限開講の外国史Ⅱは、三回生以上を対象に、上記タイトルで開講された。登録者数は14名であった。

(1) 講義の目的

本講義は、ヨーロッパやネイションといった集団が、そのアイデンティティも含めて歴史的に構築されたものであるとの認識に至ることを目標としている。

この目標を達成するために、「ヨーロッパとは何か」という問いを設定した。その空間としてのまとまりは如何にして形成され、また如何なる歴史的な性格を持つのか。本講義では、こうしたヨーロッパ意識の形成過程を、いくつかの具体的事例を取り上げつつ長期的視点から検討した。そしてそこからは、地域的アイデンティティの複層性や変容、アイデンティティ形成における歴史の役割、そして「他者」の重要性などが明らかになった。

こうした認識を得ることは、ひいては、近代国民国家の成立以来我々を強烈に縛り付けてきた「ネイション」の相対化に繋がると同時に、紛争をはじめとした現代世界の諸問題を考える際の、糸口になると考えている。

具体的な目標は以下の通りである。

- 1) ヨーロッパが歴史的な形成物であることを理解することができる。
- 2) ヨーロッパが複数のアイデンティティから成り立っていることを理解する。
- 3) 以上の理解を通じて、我々を捉えて離さない国民国家意識を相対化することができる。
- 4) 講義中に得た理解・関心・共感を、主体的に自らの研究に活かすことができる（試験に反映させることができる）。

(2) 講義の詳細

授業は、基本的に、講義形式で行われた。まずはなぜ、トルコはEUに入れないのか、そ

の場合の「ヨーロッパ」とは何なのか、などの問いかけをしたうえで、①古代ギリシアにおける異文化受容と近代ヨーロッパにおけるその否定(古代ギリシアの理想化)、②中世におけるヨーロッパ意識の勃興とその内容、③ヨーロッパ各地域におけるゲルマン的要素とローマ的要素の併存、④キリスト教(カトリック)＝ヨーロッパの形成におけるギリシア正教の役割、⑤「他者」としてのビザンツ帝国、オスマン＝トルコ、⑥地域紙幣(イングランド銀行発行紙幣に対するスコットランドとアイルランドの立場)とアイデンティティ、といった内容を扱った。

資料に関しては、各回の内容に沿った史資料を可能な限り準備して、学生による理解を手助けすると同時に、ビデオなどの映像資料も利用した。

(3) 授業外学習時間の促進のための工夫

毎回、次回の授業内容を簡単に紹介すると同時に、調べておくべき用語を指摘するようにした。また、ギリシア神話についてなど、ヨーロッパ文化を理解するのに必要な文献を取り上げ、関心を示した学生には貸し出すようにした。さらに、年明けには試験問題を発表することで、準備のための学習を促した。

2. 授業評価の内容と結果

授業評価は、学生に無記名アンケートを実施し、その結果にコメントを付すことで行うこととした(2015年2月4日実施)。受講登録者14人中、アンケート回答者は13名(社会科教育三回生8名/教育学三回生2名/技術教育四回生2名/音楽教育四回生1名)であった。

◎ 問5を除いて、問1～7は、次の五段階で評価してもらい、下表のような結果を得た。
<評価基準>

5: 強くそう思う(非常に良い)

- 4 : ややそう思う (良い)
- 3 : どちらとも言えない (普通)
- 2 : あまりそう思わない (あまり良くない)
- 1 : 全くそう思わない (良くない)

< 問い >

- 問 1 この授業への出席状況は
- 問 2 授業のテーマ・目的は、明確でしたか
- 問 3 担当教員の説明は分かりやすかったですか
- 問 4 配付資料・映像資料などは有用でしたか
- 問 5 授業外学習時間は、どのくらいでしたか
- 問 6 授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか
- 問 7 授業によって考え方が培われたり、得るところがありましたか

評価	5	4	3	2	1
問 1	7	3	1	1	1
問 2	10	2	1	0	0
問 3	8	4	1	0	0
問 4	9	4	0	0	0
問 6	2	4	7	0	0
問 7	7	6	0	0	0

* 問 1 ~ 7 に対するコメント

- 問 2 : 最初のテーマ [= 近代ヨーロッパにおける、古代ギリシアの理想化について] で、どんなことをするのかイメージが持てた
- 問 3 : 板書が多かったが、後で見返すとどんな背景があったか、振り返ることができる / 資料などを見ながら、よくわかるものだった
- 問 4 : 特にビデオが分かり易く、当時の背景が伝わった / 視覚的に分かり易いものが多かった
- 問 6 : あまり知識のない内容で、難しかったが努力した / もう少し予習復習に努めようと思う
- 問 7 : アイデンティティの操作について考えた / ヨーロッパの多角的な考え方を知ることができた

◎ 問 5 の授業外学習時間について

- ・ 週に 2 時間 1 人
- ・ 週に 1 時間 5 人
- ・ 週に 30 分 5 人

- ・ 週に 0 時間 2 人

◎ 問 8、9 は記述式で解答を求めた。以下、紙幅の制約上、内容を整理して取り上げる。

問 8 この授業で良かったと思う点、印象に残った点を挙げてください。

情報量が多い / 内容がとても面白かった / ギリシアの「白い文明」をはじめ、ヨーロッパ人の作ったヨーロッパについて考えることができた / 紙幣についての授業が一番わかりやすかった / ギリシア神話からヨーロッパ・アイデンティティを考えることがとても新鮮だった / 新たな歴史認識を得ることができた / 歴史を学びながら、現代社会の問題につなげることができた / 歴史を学ぶことはアイデンティティの形成につながる

問 9 この授業で改善すべき点を自由に挙げてください。

板書を見直した時に、どこが重要なかわからなかったなので、重要なところに色を付けるなどしてくれたらいい / 高校世界史の知識が身につけていないと、専門用語がわかりづらいが、予習で十分だと思う。

3. コメント

— 授業の達成度・今後の課題 —

日ごろ、我々が自明のものとして取り上げることのない「ヨーロッパとは何か」という問いに対して、場所や時代を変えながら、印象的なトピックを取り上げて考察する本講義は、通史の場合などと比べると、なかなか理解しがたい面があったようだ (問 6 に対する回答)。しかしそれでも、問 8 での記述 (および期末試験の結果) からは、受講生が、ヨーロッパ・アイデンティティの形成と歴史 (観) について、一定の認識を得たと解釈できそうだ。今後はこの認識を、自分自身のアイデンティティを問い直す姿勢に結び付けたい。そのためにもっと受講生との対話に時間をかけて、現代社会に生きる我々日本人について、またさまざまなレベルでの「地域問題」について、ディスカッションしていくことが必要だと考えている。このディスカッションの準備として課題を出すことで、受講生の授業外での学習も確実にできるのではないかとの見通しを持っている。